

第2回 まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事要旨

日時	平成27年9月11日(金) 15時00分～17時00分	
場所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室	
出席者	<p>【本部長】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p>【委員】</p> <p>安藤 仁 名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当部長</p> <p>伊藤 博美 名古屋経済大学 人間生活科学部 准教授</p> <p>若林 宏保 (株)電通 電通 abic プロジェクトリーダー</p> <p>桑原 かおり (株)ゲイン メナージュケリー編集長</p> <p>田中 理絵 ママラボ代表</p> <p>坪井 俊和 大城児童館 館長</p> <p>土方 裕美 アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ代表</p> <p>小塚 智也 こども未来部長</p> <p>【コーディネータ】</p> <p>石田 洋一 (株)電通コンサルティング</p> <p>【事務局】</p> <p>伊木 利彦 市長公室長</p> <p>舟橋 逸喜 市長公室次長</p> <p>宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長</p> <p>舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課係長</p>	
欠席者	なし	
傍聴者	5名	
配布資料	資料1	委員名簿、配席表
	資料2	生活者要件の整理
	資料3	小牧市の強み・弱みの整理
	資料4	将来ビジョンの検討
	資料5	具体的施策の検討
	参考資料1	まち・ひと・しごと創生タウンミーティングにおける主なご意見

■主な内容

1. 開会

(1) あいさつ

先月の第1回会議において、人口動向の分析や生活者アンケートの結果から、本市は若い世代が転出超過傾向であり、こういった世代が小牧市に定着するよう“住のブランディング”を確

立すること、シンボリックな場所を作ること、外向けPRが重要というご意見をいただいた。

これをもとに、総合戦略に盛り込む施策について専門的な立場・経験から議論をお願いしたい。

2. 議題

(1) 生活者用要件の整理

(2) 小牧市の強み・弱みの整理

(3) 将来ビジョンの検討

(4) 具体施策の検討

【田中委員】

- ・若い女性が転出超過なのは、女性の雇用の場が少ないなど産業上の偏りがあるのではないかと。働く男性と専業主婦という構図ではなく、女性が働けるサービス業などがあるといい。

【山下本部長】

- ・15～24歳の男性の転入超過は、自衛隊小牧基地にある航空管制の学校に来る人が多いことが影響しているのではないかと。そして、卒業後に全国に羽ばたいていくため、25～34歳が転出超過という構図だと思う。
- ・女性は仕事上というより、結婚等に出ていく傾向があるのではないかと。女性の転出超過はとても懸念している。「女性の働き方」について考えていく必要がある。
- ・転勤で小牧市に転入した方を転出させないという考え方もある。次の転勤の時には単身赴任で行き、家族は小牧市に定住してもらえるような魅力が必要だと、という意見がタウンミーティングで出た。

【若林委員】

- ・製造業が多い「男性の働く場」のイメージから、女性が地元の資産を生かしてビジネスができるといい。

【安藤委員】

- ・転勤であれば、転出数と転入数はバランスがとれてプラスマイナス0となり、転出超過にならないはず。転出理由については、実際に転出届を出される方に窓口で聞いて把握した方が良い。
- ・働く場所は多いが生産性が低く、年功を積んだ方は生産性の高いところに転出してしまっているのではないかと。

【山下本部長】

- ・毎年、総人口の約1割が転出入をしているが、総人口はほぼ横ばい。働く場所はあるが、家を買うときに選ばれていないという印象がある。
- ・小牧市内で働いているが、小牧市に住んでいない人の考えを聞いてみると、居住者のイメージと相違があるかもしれない。

【安藤委員】

- ・空き家率については、問題化していないのか。

【山下本部長】

- ・全国と比較すると空き家は社会問題にはなっていないが、地域によって差があるため、空き家を活かしたリノベーションの施策などの対策は今後必要となってくる。
- ・医療機関の充実、育児補助などは想起時と居住時のイメージの差がかなりある。イメージアップを図るためのPRの仕方が課題である。

【若林委員】

- ・ママのコミュニティなど個の力をもっと多くの人に共有できる象徴的な場を作っていくとよい。

【田中委員】

- ・単なるPRは関与度が高い人にしか届かないため、場を作っていくことが必要。
- ・他からの指摘で自分の住んでいる街の良さに気付くため、メディアや市外の人から正当に評価してもらうことが重要。

【坪井委員】

- ・四季の森は、他市からもたくさんの方が来る集客施設であるため、周辺を整備して、公園を中心とする住環境を整備してはどうか。

【土方委員】

- ・女性はお店、病院等の情報を常に探しているので、女性の口コミの影響力はすごい。
- ・才能を眠らせているお母さんが多いと思われるため、ママフェスタのような得意分野の提供・発表の場を作るといいのではないか。
- ・ファミリー向け物件だけでなく、単身のキャリア女性が単身で住めるような物件があるといい。

【坪井委員】

- ・治安が悪いというイメージがあるため、賃貸マンションのオートロック化を広めるなど、街全体のセキュリティが高まるといい。

【小塚委員】

- ・現在、待機児童を解消できていない。今年の4月に保育園を新設したにもかかわらず、待機児童があることはイメージ的にマイナスだと思うので、待機児童の解消については最優先課題と捉えている。

【桑原委員】

- ・フリーマガジンのアンケートにおいて、家を買うタイミングは、結婚や子どもの入学時が多いことがわかった。結婚を考えている方にアピールしてはどうか。
- ・20年前はドライブの本が流行ったが、最近の若い世代は車に乗らない方が増えてきているため、車でアクセスの良さは強みでなくなっていくかもしれない。
- ・車がなくても良いところ、といったエコやスローライフのイメージ付けを行ってはどうか。

【伊藤委員】

- ・働くお母さんにとって、今までと違った働き方で自分の居場所があることが必要。主婦の経験を活かせる小さなビジネスを活性化、創出していくことが必要ではないか。
- ・待機児童は課題であるが、解消するために保育園を作るとさらにニーズが高まる。また、待機児童の水面下には、希望の園に入れなかったという人が多数いる。

- ・小牧市は ICT 教育が充実しているので、それを多年齢に広げていくということも重要。
- ・フルタイムで働いている人をメンタル的に救う「ケアする人をケアする」ことが大事。ただ、課題解決というよりは課題を共有、共感していく場を提供する方法もあるのではないかな。

【安藤委員】

- ・横浜市では、待機児童ゼロを達成した後に転入者が増えて、ゼロでなくなってしまった、という事例があるが、それは人口増という喜ばしいことなのではないかな。

【田中委員】

- ・結婚後に住むエリアや家を買うエリアは、独身時代に住んでいたエリアなど土地勘のある場所が多いため、既婚者だけでなく、未婚者に向けた施策も有効ではないかな。

3. 【閉会】